

# idea

## CONNECT × CONNECT

Twitter★[http://twitter.com/#!/center\\_i](http://twitter.com/#!/center_i)

HP★<http://www.center-i.org>

いちのせき市民活動センターニュースレター アイデア

NEWS LETTER IDEA

January

2013

いちのせき市民活動センター情報誌「idea」は、  
NPO・行政・企業の情報発信により、アイデアと  
出合いの機会を創ります。

いちのせき市民活動センター  
〒021-0881 岩手県一関市大町 4-29 なのはなプラザ4F

TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

Email [center-i@tempo.ocn.ne.jp](mailto:center-i@tempo.ocn.ne.jp)

## Vol.10

せんまやサテライト

〒029-0803 岩手県千厩町千厩字町 149

TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736



# いちのせき市民活動センター内スタッフ研修

## 「リーダー研修」

—平成24年12月29日(土)—



今月は、いちのせき市民活動センター内で行った、スタッフの研修を記事にしました。

### リーダーに必要なスキルとは？

リーダーってどんな存在？という問いかけから始まった今回の研修。スタッフからは「周囲の状況を見ながら、適切な判断が出来る人」「話を聞き、まとめる人」「進むべき方向性を導いてくれる人」等という意見が出ました。しかし、リーダーにはこのようなスキルをもっていなければ、なれないのでしょうか。進むべき道へ導くとは、どういうこと

か。今回の研修では、リーダーになる状況を体験するペアワークを通じて「リーダー」について体感的に学びました。

### 誘導のみを頼りに

ワークは2人一組で相手を誘導する人(リーダー)と、

リーダーの誘導に従い目をつぶった状態で歩く人(歩行者)に役割を分担。一回ごとに役割を交代しながら、3つの方法を試し、異なる誘導方法と役割を体験して感じたことを比較するというものでした。

最初の誘導方法は「言葉」です。リーダーが「3歩前に進んでください」「左斜め前を向いて下さい」という風に言葉で進行方向を伝え、その言葉を頼りに歩きます。リーダーからは、「誘導の修正がしやすい」、「視野が広い」という利点があげられる一方、歩行者からは、「距離感が掴みにくい」「障害物にぶつかりそうで怖い」という感想が出ました。

次の方法はハミングです。

進む、止まる、方向転換などを、言葉を使わずハミングによる声のリズムやトーンで伝えます。リーダーからは「言葉に比べ明確な指示が出せない」、歩行者からは「他の音とまぎれたり、声が小さいと聞き取りにくかった」という意見が出ました。

最後の方法は「無言で手を引いて誘導する」です。この方法では、リーダーは歩行者と正対しながら、自分が後ろ向きに歩きながら誘導するため「視野が狭い」という意見が出ましたが、逆に歩行者からは「手を繋いでいるので、そばにいてという安心感があった」「3つの中では一番安心感があった」という感想もありました。

各自の感想を全体で共有した後「結局どう誘導すれば良かったのか？」という意見を出し合い、その結果「言葉や音で伝えた方がリードしやすく、言葉とさらに手を繋ぐことで強い安心感が生まれる」

「声のみの誘導に比べ、無言でも手を引かれた方が安心感があった。リーダーからの一方的な誘導だけでなく、相互にコミュニケーションをとることでリーダーも歩行者もさらに安心感が生まれる」というまとめになりました。

私達は、普段誰かにリードされることも多いですが、ワーク後の「判断力・決断力・指導力といった特別なスキルを持つていなければリーダーになれないという訳ではない。リーダーだって悩みも迷いもする。逆に誰もがリーダーになれるし、特にいちのせき市民活動センタースタッフは一人ひとりがむしろ積極的にその立場に立っていくことが今後求められる。」という指摘を踏まえ、今回の研修で学んだ「相手の立場を考え相互にコミュニケーションをとる」という姿勢を日々心がけたいと思います。

2 | センター内スタッフ研修  
リーダー研修

4 | 地域コミュニティの活動紹介  
山目・中通民区

5 | 企業の地域づくり  
トーバン印刷 株式会社

6 | 団体紹介  
かやぶき民家を残す会

7 | 歩が行く-スタッフの体験レポート-  
和紙染め体験

8 | 2月のイベント・ボランティア情報

一関市内の NPO 法人  
市内 31 法人が活動中です。

- 1 藤沢町ボランティアセンター
  - 2 北上川流域河川生態系保全協会
  - 3 ケアセンターいこい
  - 4 須川の自然を考える会
  - 5 レスパイトハウス・ハンズ
  - 6 一関文化会議所
  - 7 一関ケアセンター
  - 8 ワークハウス雲
  - 9 里山自然学校 はずみの里
  - 10 全国地域学習振興会
  - 11 北上川サポート協会
  - 12 グリーンハート
  - 13 いわい地域支援センター
  - 14 アートで明るく生きるかわさき
  - 15 障害者への偏見と差別をなくす会
  - 16 サン.スマイル
  - 17 ねこの手クラブ
  - 18 いわてコミュニティファンド
  - 19 千厩まちかどケアセンター
  - 20 いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊
  - 21 いちのせき子育てネット
  - 22 響生
  - 23 わかば会
  - 24 防災サポートいちのせき
  - 25 とーばんふうどくらぶ
  - 26 生涯支援センター岩手 日向ぼっこ
  - 27 あゆみ
  - 28 子育て支援いっすね
  - 29 ファンスポルト一関
  - 30 北上川流域連携交流会
  - 31 グローバルヒューマン
- (認証順で掲載しています)

1月の表紙



千厩「愛宕神社」

新年明けましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になりました。今年も地域の活動支援や情報発信に努めますので宜しくお祈りします。

「今年もたくさんの方々との出会い充実した1年になりますように」

いちのせき市民活動センターニュースレターideaは、市民活動がアイデアを持ってNPOと行政や企業、市民との出会いの機会を創りだすことを目的とした情報誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や行政情報をお届けします。



# 山目・中通民区

～社長の言葉を胸に地域への恩返し～

区長

岩井 健壽さん



## 地域 コミュニティの 活動紹介

一関インターと国道342号線に隣接し、小学校、幼稚園、学習交流館等の施設が並ぶ赤萩地区の中心、山目・中通民区には、2003世帯、593名の住民が暮らしています。ひとつの言葉を胸に区長として地域への恩返しを続けている岩井さんに、お話を伺いました。

### 分區で創設された新民區

山目・中通民区は、世帯数の増加などに伴い平成15年に「山目8・2民区」が分區されて出来た新しい民區で、創設10年になります。区域内を横断する照井堰周辺の昔からの農家と、宅地分譲等による複数の住宅群が混在しており、他の地域に比べ30～40代の若い世帯や子供の数が多いという特徴があります。民區は総務、福祉、環境・衛生、体育・文化、防犯・交通安全、防災（自主防災会）という6部会で組織され、岩井さん自身は分區前の防犯・交通安全部長を務めた後、新民區設立時に初代区長に就任。以来10年に渡り民區の舵取りを任されています。

### 驚きの参加率と

### 「山目・中通民区だより」

岩井さんが区長就任当時から約年4回のペースで発行している「山目・中通民区だより」は、昨年12月で36号になりました。「どうぞご覧下さい。」と笑顔で差し出された水色のファイルの中には、カラー写真とレイアウトの工夫等読み易さに腐心した36号全ての民区だよりと、民区活動の新聞記事の切り抜きが綴られています。民区だよりは全戸に配布されますが、そこには「何でも役員だけが参加するというのはだめだ」と思う。災害時を考えても組織で動けず隣組に頼らざるを得ない場面もあり住民個々のレベルアップが必要。『民区』と『個人・隣組』の二本立てでいかなければならない。そして参加してもらうには回覧だけでは駄目。という岩井さんの思いがあります。こうした取り組みと、住民協力による民区行事への参加率の高さには驚かされるものがあります。例えば農業用水路の泥上げを行う「堰払い」には、農家だけでなく130人以上が参加。小学校PTAと合同開催し

た昨年の「ボウリング大会」にも100人以上が集まったほか、売店を出し、仮装や大抽選会を行う「夏祭り」の参加者は、昨年ではなんと250人を超えたそうです。

### 地域への恩返し

在職中、危機管理意識の高い職場で勤務していたこともあり、「区長になるにあたり防犯と共に防災を最重要視した」と語る岩井さん。平成17年に立ち上げた自主防災会は、消防署・消防団と連携し毎年訓練内容を変更して行う防災訓練や、火災警報器の共同購入等の活動が評価され、消防署から表彰を受けるなどの成果を上げています。

定年退職する際、社長に言われた「今まで地域の人たちにお世話になったのだから、今後は地域に貢献して恩返ししなさい。」という言葉。「この言葉を胸に自分なりに考えながら一生懸命やってきたつもり」と10年間を振り返り、岩井さんは笑顔を見せられました。

# 企業の 地域づくり

～郷土愛で支え、  
発信していく印刷業～



トーバン印刷 株式会社  
代表取締役社長 菅原 正行 さん(左)  
常務取締役工場長兼制作本部長  
熊谷 輝夫 さん(右)

今回の企業の地域づくり取材は、人と環境に優しい印刷物・情報サービスを通して、地域社会への貢献と地球環境の保全に取り組んでいる一関市千厩町のトーバン印刷 株式会社へお邪魔し、代表取締役社長の菅原

さんと常務取締役工場長兼制作本部長の熊谷さんにお話しを伺いました。

## 時代とともに、人とともに 昭和から平成へ

先代社長で創業者の菅原 正さん(故人)が一関市千厩町に謄写印刷業を開業したのは、昭和30年。鉄筆一本とヤスリ板一枚でスタートした「東磐プリント社」は、平成2年に「トーバン印刷株式会社」と社名を変更し、平成18年に創業50周年を迎え記念事業を開催しこれまでお世話になった地域の人達へ感謝の意を表しました。時代とともに、印刷の技術は「タイプ印刷」から「オフセットカラー印刷」へと進化を遂げますが、いつの時代も変わらぬ郷土愛を取材の中で感じられました。

「小さな町に商店があり、役場や農協がある。小中高と学校があって、人がいた。だからこそ企業がある。丁寧な仕上げ信頼を築き上げる。会社は、少しでも従業員とその家族がちゃんと生活でき安心して働けるようにする。地元で買いたい物をすれば、地域の商店街が潤う。そういった循環ができて企業が成り立つ。でも、今は時代の流れに逆らうことはでき

ないから、新しいことにも挑戦していく。」菅原さんは、昭和の古き良き時代を振り返りながらも、盛岡・北上・一関の営業所開設や、現在、県内の印刷会社では5社のみ取得しているという「JIS Q 15001」プライバシーマークを取得し、印刷業・情報加工業として個人情報適切な取り扱いに努めるなど、変わりゆく企業体制にも積極的に取り組んでいます。

## 環境保全活動と 地域の絆

平成13年に、県内印刷業で初めての環境ISOを取得。社員への環境保全教育の徹底や、本社・各営業所周辺の清掃活動はもちろんのこと、一関市室根町で開催される「森は海の恋人植樹祭」では、社員有志やその家族も含め積極的に参加をします。平成14年には千厩町民憲章推進協議会から「環境保全活動」で表彰されました。

また、地域イベント「千厩夏祭り」へは社員全員が参加し、有志で結成する五心会を中心に製作した山車や、「千厩音頭」を揃いの法被で披露しました。さらに、平成17年には、日

頃のお客様のご愛顧に感謝し、一関市藤沢町の縄文ホールを会場に「松田隆行コンサート」を開催。旧東磐井郡内や一関市内の地域住民がコンサートを満喫し、従業員らはイベント初体験ながらも実行委員会を中心としてこのコンサートを盛り上げたのです。

## 笑顔あふれる社内環境

今回の取材で、創業50周年記念誌を拝見し、たくさん写真の中に従業員の笑顔がありました。同社従業員が自ら積極的に地域行事や環境活動に参加している姿を拝見し、企業が従業員の安心や安全をサポートし、その家族も含め包み込んでくれることで、信頼関係が築き上げられ従業員の活発な地域活動参加に繋がっているのではないかと感じました。

心温かい記念誌と、創業者で初代社長の菅原さんの人柄、ご夫婦で築き上げた千厩での開業、社員も家族のように受け入れ、支え・支えられ、たくさんさんの愛情で企業が発展し、地域に感謝している様子が伺えました。

# かやぶき民家を残す会

## 団体紹介

～基本情報～

会長…村上 和子さん

◆事務所

〒021-0902 岩手県一関市萩荘字高梨東 38-11

TEL : 0191-24-4418 FAX : 0191-24-4401

お問い合わせ用 E-mail : ozakicomtec@yahoo.co.jp



村上 和子さん

## 伊達藩時代から受け継がれてきた文化を、 地域遺産として未来へ残すために。

### かやぶき民家を 残す会とは

団体の会長である村上さんは、平成20年まで屋根ふき職人の育成を目的に活動していた「かやぶき職人をつのる会」を翌年から引き継ぎ、新たに「かやぶき民家を残す会」として団体を発足。職人育成の他、新たにかやぶき民家を残すという目的を加え、地域にあるかやぶき民家の周知・啓蒙活動を行っています。

「地域にあるかやぶき民家を、より多くの人に知ってもらいたい」と話す村上さんは、平成23年から「かやぶき祭り」を開催し、今年も2月15日（金）に開催を予定。初回の祭りでは、職人によるかやぶき実演、かやぶき民家の写真展示、市内のかやぶき民家を見てまわるバスツアー等が企画され、祭りに訪れた多くの人がかやぶき民家を知り、体験し、学びを持ち帰りました。特に、かやぶき実演は間近で職人の技を観れる貴重な機会とあり、県外からも観光客が訪れましたが、このかやぶきの技術を習得するには多くの年数と費用がかかると村上さんは語ります。現在は、月に2回ほど村上家敷地にある東屋にて、応募して集まった地域住民を対象に指導が行われていますが、先生に認められ職人として現場に出ることを許可されるには早くても4年～5年かかるといいます。現在市内で活躍しているかやぶき職人は、藤沢町と千厩町に在住している3名のみ。市内のかやぶき民家を未来に継承し続けるためには職人の力が必要不可欠なため、「一人でも多くの職人を育てたい」と村上さんは話します。

### 岩手県指定文化財

#### 村上家

千厩町小梨地域にあり、かやぶき祭りの会場にもなる村上家は、18世紀に建てられ、約築300年にもなります。母屋だけでなく、馬屋、厩、井戸、木小屋、小家まで六棟

全てがかやぶき屋根で残されているのは県内でも非常に珍しく、その価値が認められ平成8年に岩手県指定文化財になりました。建築当時から姿形を変えない村上家は、まるで建物周辺だけ時が止まっているかのようです。この村上家には周辺地域の住民を始め、海外からも頻りに観光客が足を運んでおり、村上さんは「このような観光等を通じ、地域活性化に結び付けていきたい」と抱負を語ります。村上家と他、会員14名のかやぶき民家を団体パンフレットで紹介していますが、ここで紹介しているのはごく一部。「一関市内に多くのかやぶき民家が残っているのは貴重なことであり、大きな誇りを感じます」と村上さんは語ります。

大昔から地域を見守り続け、文化を伝えてきたかやぶき民家。これからも地域の宝として、未来に受け継がれていくてほしいです。



# 歩が行く

センタースタッフの千葉歩の体験レポートです。

今月は、一関博物館が主催する体験学習で、『和紙染め』を体験してきました。

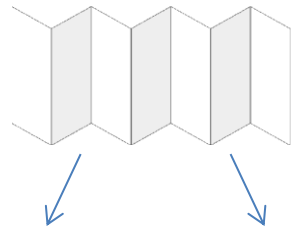
和紙といえば、一関市東山町の『東山和紙（とうざんわし）』が有名で、平泉藤原文化を受け継いだ和紙の生産地であります。

今回は古文書などに使われている和紙の性質を知ってもらおうと企画され、冬休み中の市内・外の小学生などが親子で参加しさまざまな模様づくりで和紙に親しみました。

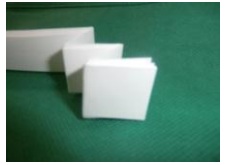
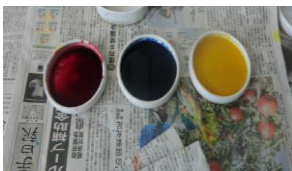


## 和紙染めの下準備

和紙を蛇腹折りにし、折った和紙を端から△に折ったり、□に折ったりと角を作り準備します。△や□も蛇腹折りにします。



和紙染めに使用する色は赤・青・黄色で、組み合わせること（染みこみ具合）でさまざまな色の変化が楽しめるようです。



## 和紙を染めてみよう！

和紙は、洋紙に比べ格段に繊維が長く薄いが、被れにくいといった独自の風合いを持っています。

折った和紙を水に浸し、水分を抜きます。水分は充分に絞ったほうが、色を入れた時染みこみ過ぎないようにです。



浸す



絞る

△や□に下準備した和紙を、直接色を染み込ませます。広げるとどんな模様になっているのかとても楽しみですね。



この他にも染めの下準備に、和紙を『こより状』にし、端から巻いた状態のものや和紙を輪ゴムで結んだものなども作りました。



くるくるの巻にした場合や輪ゴムで結い下準備した和紙の色付けにはスポイトを使用すると便利です。



## 出来上がり♪



## 体験は素晴らしい!!

染める人によって鮮やかな色・模様に変化した和紙染め。水で濡らし、色を入れても和紙はとて丈夫でした。次回は、ぜひ和紙作りに挑戦したいと思います。

一関市内では、この他にも地域に伝統あるものづくり体験を子どもと一緒に楽しめ、学べる場所があります。もちろん、大人だけでも学び・体験できる場所がありますのでこれからもたくさん紹介できれば♪と、思います。

今年も『歩が行く』のコーナーをよろしく願っています。



# イベント・ボランティア情報



いちのせき市民活動センターでは、一関市内で活動する市民活動団体や企業で行うイベントの情報やボランティア募集の情報をお待ちしております。  
TEL0191-26-6400 FAX0191-26-6415 ✉center-i@tempo.ocn.ne.jp



## 新春景観シンポジウム

(社)岩手県建築士会一関支部は、『『なかなか遺産』と地域未来の可能性』と題し、新春景観シンポジウムを開催します。「地域が映える建築と環境」、「一関の景観資源とまちづくり」「なかなか遺産とは」他をテーマにした基調講演も行います。

日時：25年2月3日(日)  
開場12時30分、開演13時  
場所：ホテルサンルート一関「芙蓉の間」  
料金：入場無料  
問い合わせ：(社)岩手県建築士会  
一関支部 事務局  
電話：0191-48-4330



## 第6回 全国わんこもち大会

未来塾実行委員会では、もち文化伝承のまち・一関を全国にアピールするため、岩手名物わんこそばをもちに代えた「全国わんこもち大会」を開催します。同時に、中東北のもち料理を販売する「ミニもちサミット」の開催や、もちの振る舞いもあります。ゲストMCにはふじぼんをお招きします。

日時：25年2月3日(日)  
10時～15時  
場所：なのはなプラザ4F  
(新鮮館おおまち4F)  
連絡先：いちのせき市民活動センター  
電話：0191-26-6400



## 第4回館ヶ森風祭り

館ヶ森アーク牧場では、～元気な子供たち集まれ！館ヶ森の広い高原で風を感じて元気に遊ぼう！～をテーマにお祭りを開催します。ゲストにゲイビマン、おいしい料理も多数用意しております。

日時：平成25年2月3日(日)  
10時～15時  
場所：岩手サファリパーク  
内容：写生大会、二日町祭神太鼓演奏、ヒーローショー、餅つきお振舞他  
問い合わせ：館ヶ森アーク牧場  
電話：0191-63-5100



## “がん”を知るフォーラム ～最後の時を自分らしく生きる～

いちのせき在宅緩和支援ネットワーク(IZAK)では、「“がん”を知るフォーラム」と題し、講演とシンポジウムを行います。

日時：25年2月9日(土)  
13時開場  
場所：一ノ関文化センター 中ホール  
内容：講演「豊かな生と死を考える」シンポジウム  
「自宅で看取るということ」  
参加料：無料  
連絡先：磐井病院 地域医療福祉連携室  
問い合わせ：0191-23-3452



## 見学バス運行のお知らせ

観光交流ネット千厩では、「せんまやひなまつり」と「大原水かけ祭り」を見学するバスを運行します。

日時：25年2月11日(月)  
9時30分～17時  
場所：一関駅西口 集合・出発  
定員：40名(予約制で先着順)  
締切：25年1月31日(木)  
料金：参加料無料  
昼食代・入館料等は個人負担  
服装：厳冬の野外での見学となりますので、防寒具を各自準備ください。  
連絡先：観光交流ネット千厩/永澤  
申込・問合せ：0191-52-2054



## 第二回 かやぶき祭り

かやぶき民家を残す会では、市内に多く残るかやぶき民家を知り、昔の文化を学んでもらうことを目的に「第二回 かやぶき祭り」を開催します。かやぶき民家の写真展、語り部による昔話、団子汁と甘酒の振る舞い等を行います。

日時：25年2月15日(金)  
9時～15時  
場所：岩手県指定文化財 村上家  
(住所 千厩町小梨字不動65)  
入場無料  
問い合わせ：かやぶき民家を残す会  
電話：0191-24-4418



## あったか であいばーていー

婚活さぼーと・絆スワンの会では、婚活パーティーを開催します。こたつ舟で狛鼻溪をまわり、レストラン・カフェにて交流パーティーを行います。

日時：25年2月17日(日)  
13時30分～20時  
場所：一ノ関駅東口交流センター2F  
募集人員：男性20名、女性20名  
※独身者に限り  
申込期限：2月10日(日)  
(定員になり次第×切)  
会費：男性3000円、女性1000円  
連絡先：婚活さぼーと・絆スワンの会  
申込先：0191-23-8254



## 子育てサロン「バルーン」

子育てサロン「バルーン」では、ミニミニ運動会やお茶っこのみなど、親子が参加して楽しめる様々な活動を行う仲間を募集しております。2月は「大きくなったね！会」を行います。

日時：25年2月18日(月)  
場所：バルーンキッズ2階  
(一関二高向かい)  
参加料：1回…100円  
年会費…500円  
持物：動きやすい服装  
申込：必要(前日まで)  
電話：080-5221-6087  
担当：子育てサロン「バルーン」/野沢



## 3倍美味しくなるごはん塾

漁師のおつまみ研究所で活躍中の浜のお母さんたちによるおうちごはんレシピを紹介します！浜のお母さんたちと会話をしながら、気楽に、日常の食卓を賑わすレシピを作ってみましょう。

日時：25年2月21日(木)  
19時～20時30分  
会場：海石榴(つばき)  
(大手町2-16 一関文化センター2F)  
講師：漁師のおつまみ研究所！  
定員：15名  
参加費：1000円(ドリンク代込み)  
申込先：メール  
(oikawa.srp.funpsport@gmail.com)